

---

# 傀儡子

Emp

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

傀儡子

### 【Nコード】

N3126D

### 【作者名】

Emp

### 【あらすじ】

クレーンゲームのありふれた人形を求めて身体を与える少女の心にあるものは……

ねえ、ちょうだい　と、少女は私に掌をさしだした。

薄暗いラブホテルの壁に白を基調とした制服が掛かっている。

「援交じゃないよ」という言葉がよみがえった。私は、それをかき消して起き上がりジャケットを引き寄せた。ポケットに手を入れたとき、

「お金じゃなくって、そっち」

くすつと笑って、少女は私の鞆を指さした。細い人差し指の先には、さつき手に入れたクレイニングゲームの景品があった。蒼い髪をした少女の人形で、人気アニメのキャラクターだった。

人形を渡すと少女は、愛おしそうに抱いた。その瞳に安堵の色を浮かんでいた。

「どこでもある人形じゃないか」

ホテルを出て、新宿に向かう狭い橋の上まで来たとき、私は思いきって聞いた。

行きずりの男に身体をあずけてまで、何故。そう続けた問いは小さく、少女に届いたかどうからなかった。

少女は不意に、石造りの橋の低い欄干に登った。そして、外側に張られた転落防止用のフェンスに寄りかかった。きしり、と金属のたわむ音がした

「分身なんだよ」

少女は両手を広げた。

「分身？」

「そう、たくさん作られた中に一つだけ、自分の分身の子がいるの。その子に出会えた女の子は、幸せになれるんだよ」

そう言って、少女はあどけなく笑った。罪悪感にも似た感情が胸に浮かんだ。

私は少女をみあげた。

えい、と少女が小さく叫んだ。

月明かりの中、蒼い髪の人形が飛んだ。

少女が投げた分身は、ゆるやかな放物線を描きながらフェンスを越えて橋の下に落ち、やがて、闇に汚れた川の水に紛れて姿を消した。

「全部、流れちゃえ……」

吐き出すような呟きが秋の夜に流れた。

（後書き）

初投稿です。短い作品ですが、よろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3126d/>

---

傀儡子

2010年12月7日14時42分発行